

令和7年度7月期 GSS 活動報告（栗駒山地）

岩手南部森林管理署

栗駒山（須川岳）における、令和7年7月期の森林保護員（通称：グリーン・サポート・スタッフ（GSS））による保全活動について、以下のとおりご報告します。

登山される方は、8月以降も暑い日が続いていますので、熱中症等への対策を十分に取りつつ、栗駒山地の自然環境を満喫していただくようお願いします。



○7月の天候

少雨だった梅雨も7月中旬には明け、近年稀にみる水不足が心配される中、岩手県の平野部では猛暑が続く毎日となってきました。

標高約 1,120m の須川高原では、平地よりも気温が数度低く、湿度も低いいため時折吹く風には心地よさを感じますが、直射日光が当たるエリアも多く、また、登山中は体温が上昇するため、状況によっては熱中症リスクが高まりますので、万全な対策をお願いします。

東北地方では、夏場に太平洋から「やませ」と呼ばれる冷たく湿った風が吹くことがあります。やませによって運ばれた空気は奥羽山脈を越えることができません。このため須川高原では、写真のように片側に霧がかかったような不思議な天候になる日があります。また、その際にフェーン現象が発生し、秋田県側では気温が上昇することがあります。



盛夏の須川高原



「やませ」発生時の天候

○植生の状況

7月になり、須川の花々は春の花から夏の花へと移り変わってきました。名残ヶ原湿原ではサワラン、トキソウ、オノエランが咲いています。産沼より笹森避難小屋方面へと向かう笹森コースは須川一番の花の名所。地形的に雪が吹き溜まりやすく遅くまで雪が残るので、盛夏でも多様な花を楽しむことができます。産沼コースでは少なくなってきたイワカガミ、マイツルソウ、ゴゼンタチバナ、アカモノなどに加え、ヒナザクラ、ハクサンチドリ、ミツバオウレン、ムシトリスミレなど、産沼コースではあまり出会えない花々も咲き乱れていました。また、花々の周りには蜜を求めてチョウ、ミツバチ、ハナアブなどたくさんの昆虫たちが飛び交っていました。

○栗駒山とヒナザクラ

雑誌「山と溪谷」の連載記事で「花の百名山」を選んだ田中澄江さん（脚本家・作家）が栗駒山に登った際、一面に咲くヒナザクラの群落に感動し連載記事で紹介しました。このことから、ヒナザクラは「花の百名山」栗駒山のシンボリックな花となっています。



サワラン



トキソウ



オノエラン



ヒナザクラ



ムシトリスミレ



イワカガミ・マイツルソウ・ツマトリソウ



ハクサンチドリとイカリモンガ



コバイケイソウとヒョウモンチョウの仲間



ハクサンシャクナゲとコチャバネセセリ

○保全活動の実施状況

登山者の道迷い防止のため、倒れていた道中の標識杭について、計3か所で立て直しを行いました。また、降雨時に水が溜まりぬかるみが酷くなる箇所には簡易的な木道を設置しました。ぬかるみを踏まずに地図看板を確認できるようになりました。



倒れた状態の看板標識



石を敷き詰めて立て直し



余った木材で簡易木道の設置



ぬかるんでも看板確認が可能に

7月もパトロール中多くの登山客にお会いすることができました。夏休みと重なり、親子連れ・子供のハイキング団体などとお会いすることも増えました。日中の気温が高くなってきたため、熱中症の注意喚起を行うとともに、登山道の異常・植物の盗掘などないかについて聞き取りを実施しました。また、昨月に引き続き植生保護・ゴミの持ち帰りをお願いするカードを配布しました。



ノウサギと出会えたという団体さん



夏休みを満喫する子供たち